

今日も、おにぎり

作家・エッセイスト

森 久美子

◆おにぎりは偉い

昼食の時間に家にいる日は、ほとんどいつもおにぎりを食べている。朝、子どものお弁当を作るときに、自分のおにぎりを作っておく。なにより、昼食になにを食べようか考えなくてすむのがいい。仕事で外食が続くと、自分が作ったおにぎりを食べたいと、切実に思う。

◆
おにぎりに関わる思い出はたくさんある。小学校のスキー遠足のときは、お弁当の時間までリュックを雪面に置いておくので、おにぎりが凍ってしまった。みんながそうだったから、凍ったおにぎりを笑いながら食べた。

おにぎりに巻かれている海苔は、黒く光沢のあるものばかり

りではなかった。海苔の品質や、具になが入っているかで、自分の家の生活レベルがわかるような気がして、人目を気にしながら食べたこともある。

◆
大学時代はお弁当を持っていくのがわずらわしくて、学生食堂で昼食をすませることが増え、おにぎりを食べる回数は減った。放送局で働き始めたら、その会社の社員食堂は有名ホテルの支店で、一般的な社員食堂よりずっと値段が高かった。社会人になってから、再びおにぎりを持って行くようになったのは、そんな事情もあったはずだ。

◆
私の作るおにぎりは、まるい。祖母や母が作ってくれたおにぎりがまるかったので、それが一般的な形だと思って育った。



森 久美子 (もり くみこ) さん

作家・FMアップル「北の食物研究所」パーソナリティ

札幌市生まれ

1995年 朝日新聞北海道支社主催「らいらっく文学賞」入賞（作品は、開拓時代の農村の少女を主人公にした小説「晴天色の着物」）以来、多くの連載を持つ。

2002年 第8回ホクレン夢大賞・農業応援部門優秀賞受賞

2004年 農業土木学会賞・著作賞受賞

現在の仕事と公職など

- ・ FMアップル「北の食物研究所」パーソナリティ（社団法人 北海道土地改良設計技術協会提供。99年から毎週「食と健康」をテーマに対談。企画・構成も）
- ・ 北海道教育委員会「子供の食生活を考える研修会」講師
- ・ 北海道土地改良事業団体連合会・21世紀土地改良区創造運動表彰選考委員
- ・ NPO法人 北海道田園生態系保全機構理事
- ・ 北海道教育大学岩見沢分校 非常勤講師など

著書

「わがままな母親」（芳賀書店）、「母のゆいごん」（共同文化社）

「きゅうりの声を聞いてごらん」（社団法人 家の光協会）

編著

「北の食と土地改良 全12集」（北海道土地改良設計技術協会）

会社の休憩室で、同僚がほおばる三角形のおにぎりを見て驚いた。それぞれの家庭で、形も具も海苔のつけ方も違っていると知った。誰にでも簡単に作れておいしい上に独自性を出せるおにぎりは、すぐれた食べ物だと思う。

◆おにぎりとおむすび

私がパーソナリティを務めるラジオ番組、FMアップル「北の食物研究所」の放送は三百二十回を超えた。聴取者にもっとお米を食べてもらいたくて、頻繁にお米を話題にする。お米を食べることの重要性を語るための切り口は、たくさんある。

◆

食料自給率を考える視点から、自給率を上げるためには、

「ごはん」を中心にしたバラ

スのいい食生活をしましょ

と話す。一日三食、ごはんを

一口多く食べると、自給率は

パーセント上昇しますと言っ

たときは、ダイエットに励ん

でいる若い女性スタッフから、

「その一口を我慢しなければ、

太ります」と言われてしまっ

たが、そういう問題ではない。産

地や食味を切り口に、北海道

産のお米のおいしさを話すこ

ともある。

◆
身近な食べ物の話題からお

米の大切さを知ってもらおう

と、おにぎりの話をしたときは、

「おにぎり」と「おむすび」

どちらの言葉を使おうか迷い、

図書館に向いて資料を探し

た。「おにぎり」は江戸時代から

使われるようになった。「おむす

び」の俗称らしいとわかった。

「おむすび」は、人が両手に

のせたご飯と、自然の神様の心

を結ぶものだという。おむすび

の具は靈魂をあらわしている

のだそうだ。だから、具は真ん

中にある。以前「コンビニで販売

していたような、具が表面に見

えているタイプのもは、本当

の意味では「おむすび」ではな

いことになる。対して、「おに

ぎり」は、片手で軽く握る「寿

司」に代表されるような、ふ

わっと握るものをあらわす言

葉だったようだ。

意味を考えると「おむすび」

を使いたいと思うが、「おにぎ

り」が広く市民権を得ているか

ら、「おむすび」と言つと気取っ

て聞こえそうで使いつらい。昔

話や童謡の歌詞には「おむす

び」が出てくるのに、いまは馴

染まなくなっているのを残念

に思う。

◆**ごうじ、どんな具を?**

おにぎりについてインタ

ネットで調べていて、おもしろ

いアンケート結果を見た。

「コンビニにおにぎりを、どこ

で食べますか」という質問の回

答で、全体では「自宅」が第一

なのだが、北海道は「車の中」が

一位なのだ。車社会・北海道を

象徴していると思った。実は私

も、車のおにぎりを食べる

ことがある。朝に作らなかつた

ときは、「コンビニ」で買っている。

その度におにぎりの棚の前で、

どれにしようかしばらく迷う。

前述のアンケート調査によ

ると、「好きな具」の第一位は

ツナマヨネーズ。以下、鮭、明

太子、梅と続くそうだ。私は筋

子や鮭が好きだが、あっさりし

たものが食べたいときは、梅干

のおにぎりを作る。おにぎりの

ために毎年梅干をつくってい

るのだから、入れ込みようは並

大抵ではない。

◆
私の長男は、小さい頃は体が

弱くて、ぜんそく発作が出たり

発熱したりすることが多かつ

た。熱が下がって、やっと食欲

が出てきたころに、おかゆを

作ってやろうとすると、必ず彼

は言った。

「おにぎりが食べたい」

熱が出て汗をかいたから、体

が自然に塩分を求めているの

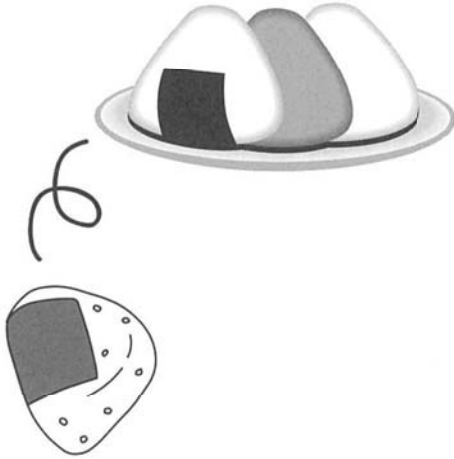
だろうかと思ひながら、梅干が

入った小さめのおにぎりを

作ったものだ。

長男が中学生のとき、夕方友

達の家におじゃましていたら、



友達のお母さんが、おにぎりや味噌汁を出してくれたという。帰ってきて私に言った。

「その家によって、おにぎりの味って違うものだね」

「どんなところが違った？」

「まず、梅干の味。それから塩加減。海苔のつけかた」

私が以前気づいたのと同じことを、長男も感じたのだろう。それぞれの家庭の個性が、一個のおにぎりに詰まっている。



今年成人式を迎えた長男は、小さい頃の病弱なイメージと程遠い。大柄で、大学のアメフト部に所属している。アルコールもかなり飲めるようだが、家ではめったに飲まない。たまには鍋をつつきながら一緒に飲みたいと思って、ある日曜日に誘ってみた。

「ビール、飲まない？」

「いらぬよ。ビール飲むと、「めし」を少ししか食えなくなるから。いっぱい食いたいんだ」

大きな茶碗で三膳食べる彼らしい台詞だ。おかげで彼は、アルコールを飲みすぎないですんでいる。お米に感謝しなければならぬ。



毎日慌しく仕事をしている私だが、料理をするのはいい気分転換になって、台所にいる時間が好きだ。今朝も炊飯器から湯気とともに、甘い、やさしい香りが広がる。炊き上がったご飯で、一口大の塩おにぎりを作ってほおぼると、なんともあわせな気持ちになった。私の昼食は、「ラ日も、おにぎり」と、決まっている。